

様式第 1 0

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
香川県高松市	高松市	令和 2 年度～令和 6 年度	令和 2 年度～令和 6 年度

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

指 標		現 状 (令和30年度)	目 標 (令和7年度) A	実 績 (令和7年度) B	実績 /目標
排出量	事業系 総排出量	54,680t	49,855t (−8.8%)	51,239t (−6.3%)	102.8%
	1 事業所当たりの排出量	2.35t	2.15t (−10.8%)	2.39t (1.02%)	111.2%
	生活系 総排出量				
	1 事業所当たりの排出量				
	合 計 事業系生活系総排出量合計				
再生利用量	直接資源化量	90t (0.1%)	63t (0.1%)	89t (0.1%)	141.3%
	総資源化量	25,685t (18.3%)	26,681t (20.6%)	20,539t (16.5%)	77.0%
エネルギー回収量	エネルギー回収量 (年間の発電電力量)				
最終処分量	埋立最終処分量	14,022t (10.0%)	12,023t (9.3%)	12,905t (10.3%)	107.3%

※目標未達成の指標のみを記載。

(生活排水処理)

指 標	現 状 (令和 年度)	目 標 (令和 年度) A	実 績 (令和 年度) B	実績 / 目標
総人口				—
公共下水道	汚水衛生処理人口 汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	% %
集落排水施設等	汚水衛生処理人口 汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	% %
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口 汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	% %
未処理人口	汚水衛生未処理人口			%

※目標未達成の指標のみを記載。

2 目標が達成できなかった要因

【ごみ処理】

・ 排出量

事業系総排出量は、目標値 49,855t に対し、実績値 51,239t となり、目標を達成することができませんでした。また、1 事業所当たりの排出量についても、目標値 2.15t に対し、実績値 2.39t で未達成となりました。総排出量は、平成 30 年度の実績と比較すると減少していますが、対象物の減量・資源化等、発生抑制への取組が十分に浸透していないことが、原因の一つと考えられます。

・ 再生利用量

総資源化量については、目標としていた 26,681 t に対して、令和 7 年度実績は、20,539 t となり、目標を達成することができませんでした。その要因として、市が回収する資源物のうち、約 6 割を占める紙類が、平成 30 年度と比較して、約 33% 減少するなど紙類の回収量が大きく減少したことが挙げられます。これは、新聞紙・雑誌等の発行部数の減少に加え、ショッピングセンター等の資源自主回収の推進や民間資源回収ステーションの設置が増えており、市が量を把握していないルートでの資源化が行われていることなどが考えられます。

・ 最終処分量

埋立されるごみの量は、平成 30 年度の実績と比較すると減少していますが、目標としていた 12,023 t に対して、令和 7 年度実績は、12,905 t となり、目標に到達することができませんでした。これは、対象物の減量・資源化等、発生抑制への取組が十分に浸透していないことや溶融スラグの活用が進まなかったことなどが要因と考えられます。

3 目標達成に向けた方策

目標達成年度 令和 12 年度まで

【ごみ処理】

市民、事業者、行政の役割分担の下で、それぞれが積極的な協働により、ごみの発生抑制に取り組み、適正な循環利用を推進します。

特に、事業系ごみについては、ごみの減量に関する取組の周知・啓発を強化し、ペーパーレス化など事業所でできるごみ減量の取組や食品ロスの削減取組を促進するなど、減量・再資源化を推進します。

また、再生利用については、ごみの発生自体を抑制する 2 R を推進し、より分かりやすいごみの分別方法の周知や、使用済小型家電などの資源物の回収を推進します。

最終処分については、ごみの発生抑制や再資源化の推進等による処分量の削減に取り組み、一般廃棄物の適正処理を推進します。また、溶融スラグについて、埋立処分地での覆土や公共工事の埋め戻し材等として利用を図ることにより、最終処分量の削減に取り組みます。

(都道府県知事の所見)

改善計画書記載の目標達成に向けた方策に取り組んでいただき、第 2 期地域計画（R7 年度～R11 年度）では、全ての指標で目標達成していただきたい。